



木を植えています
私たちはイオンです

メッセージBOOK

2009

2009年2月期 報告書

株主のみなさまへ



TOP INTERVIEW

代表取締役社長

村エ教行



イオンモールは、国・内外に51SCを運営する日本最大・最高のSC専門ディベロッパーに成長しました。

2008年度(2009年2月期)、当社は経営計画通り、4SCの新規開店と既存6SCの増床・リニューアルを実現いたしました。また、中国・北京に海外初のSCを開店、合併の相乗効果も相まって、過去最高となる大幅な増収増益を達成しました。

Q 2008年度(2009年2月期)の業績動向についてお聞かせください。

村上：当年度は、前年度に引き続き増収増益を達成。営業収益は1,308億円(前年度比35.1%増)、営業利益は378億円(同19.7%増)、経常利益は370億円(同20.6%増)、当期純利益は213億円(同22.7%増)となりました。1株当たり当期純利益は、118.09円(同2.46円増)を記録。これもひとえに皆さまのご支援のたまものと深く感謝申し上げます。

当年度は、期初の計画通り4SCを新規オープンし、当社の運営するSCは1都2府24県に50SCを展開するまでに成長、さらに、6SCの増床・リニューアルも実施しました。これに加えて、2008年11月には中国・北京に1SCをオープンし、海外展開の第一歩を踏みだしました。

今後、イオングループの中国事業展開においては大型モールの開発において、中心的役割を担ってまいります。

Q 経営環境の変化への対策はどのようなになっていますか。

村上：2008年秋以降の経営環境は、私の想像をはるかに越えて激変しました。しかし、持続的成長性と収益性を確保できる強固な事業基盤を失うわけにはありません。私は対策の迅速性が最善であると考えています。即ち、当年度の期初からスタートさせた中期経営計画では、2010年度(2011年2月期)までに15SCの新規開店をめざしていましたが、単純な「拡大」は避けて、現存のSCを確実・着実に成長させることが肝要と確信するにいたりました。新規SCの出店時期と既存SCのリニューアルは慎重に進めてまいり所存です。

Q 2009年度の注力点はどんなことでしょうか？

村上：2009年度は、①現場力の強化、②新たな収益源の開拓、③組織力の強化を重要項目に掲げました。

まず、①現場力の強化とは、各SCの商圈内において集客ナンバー1の取り組みを徹底するということです。当社の全SCで年間に4億人、1SC当たりでも1,000万人を超えるお客さまをお迎えしています。このように多くのお客さまから高い評価をいただいている強みをさらに強化いたします。次に、②新たな収益源の開拓は、当社のSCそのものの資産価値を再認識し、収益に結び付けるものです。SC内の駐車場や通路への広告や荷物カートの協賛広告など、SCのあらゆる場所・物を活用して収益を上げる手立てを考えていきます。最後の③組織力の強化は、環境の変化にフレキシブルに対応し、営業・開発・テナント開発といった当社の中心を成す組織を再編し、迅速に取り組んでいく体制を考えています。

Q SC開発・運営に変化はあるのでしょうか？

村上：当社にとって、SCの開発は成長の鍵を握る重要事項です。しかし、新規SCのオープンには多くの設備資金を要します。特に昨今は建設資材の価格が高止まりしているのが現状です。すでに2009年4月には2SCをオープンしましたが、今後の状況をみながら柔軟に取り組んでいきたいと考えています。

一方、既存SCの増床・リニューアルは、収益性の向上には重要な手立てです。すでに4月には3SCを

リニューアル・オープン、マーケットに適応した専門店の導入・リプレイスのスピードアップおよび接客レベル向上を図るなど、集客力の強化に努めてまいります。

Q CSRを尊重した経営についてお聞かせください。

村上：当社は「輝きのあるまちづくり」を経営理念に、SCが地域の皆さまの、より彩りのある暮らしの実現に貢献することをめざしています。SCは地域の皆さまに商品やサービスを提供するだけでなく、SCで働いていただくことも重要な役割です。当年度の新規オープンと増床・リニューアルの結果、1万人を超える方々を新たに雇用し、全50SCでは、約11万人の方々に働いていただいています。また、従業員の皆さま向けにコンビニエンスストアを導入するなど、働きやすい環境を整備し、当社のSCを勤務先として選んでいただくことを大切な目標としています。

また、当社は、大規模なSCを運営していることから、地域の環境保全を最優先に取り組んでおり、自然エネルギーの活用や最新の設備を積極的に導入するとともに、ゼロ・エミッションSCへの取り組みも進めています。2008年新規オープンした「イオンモール草津」は、ひときわ環境保全に力を入れ、CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)の最高位Sを取得

しています。さらに、CO₂排出量の削減は企業市民として重要な課題と認識し、全社的なCO₂削減に取り組んでいきます。

一方、「イオンモール羽生」が商業施設として初めて(財)日本産業デザイン振興会より2008年グッドデザイン賞を受賞しました。どなたにも使いやすいSCをめざしてユニバーサルデザインを強化し続けてきたことがご評価を賜ったものと考えています。

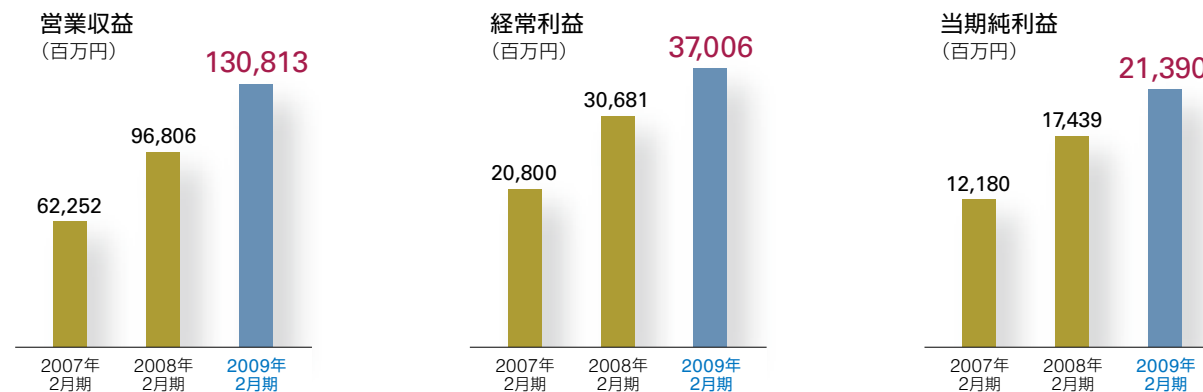
Q 来期の見通しと配当政策についてお聞かせください。

村上：わが国経済は、「100年に一度の経済危機」と評される中で、今後も先行き不透明な状況が続くものと予想されます。かような情勢下、当社はお客さまから一層のご支持をいただき、地域と共生するSCを

めざし、地域社会と一体となった開発・運営を進め、雇用や自治体の税収増加、地元商工者の皆さまの事業機会の創出など、地域の発展に寄与することで、当社もまた成長・発展できるものと確信いたします。

配当金は、中間期に1株当たり7.5円から10.0円に見直し、期末の1株当たり10.0円と合わせ、20.0円とさせていただきます。

このような厳しい環境のもとですが、来期の営業収益は、1,430億円(当期比9.3%増)、経常利益375億円(同1.3%増)をめざします。引き続き、お客さま視点、現場視点で迅速に取り組み、魅力的なSCづくりをめざし、着実に「確大」を進めてまいりますので、株主の皆さまには、さらなるご支援・ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



2008年度は4SCをオープン

50+1
SC

2008年度は、期首にスタートさせた中期経営計画に沿って「イオンレイクタウンKAZE」「イオンモール草津」「イオンモール筑紫野」「イオンモールMiELL都城駅前」の4SCをオープンし、国内で50SCを展開する日本最大のSC専門ディベロッパーへ成長しました。また、6SCの増床・リニューアルも行い、SCの魅力向上に努めました。一方、2008年11月には中国・北京に「イオン北京国際商城ショッピングセンター」をオープンし、海外市場への第一歩を記しました。

イオンレイクタウンKAZE 埼玉県越谷市
グランドオープン：2008年10月2日



敷地面積：約264,000㎡(全体) 従業員数：約9,000名(全体)
商業施設面積：約80,000㎡(KAZE) 専門店：214店(KAZE)
駐車場：3,260台(KAZE) 商圏：約330万人、約140万世帯

イオンモール筑紫野 福岡県筑紫野市
グランドオープン：2008年12月5日



敷地面積：約98,000㎡ 従業員数：約2,600名
商業施設面積：約75,000㎡ 専門店：180店
駐車場：3,600台 商圏：約96万人、約38万世帯

イオンモール草津 滋賀県草津市
グランドオープン：2008年11月26日



敷地面積：約165,000㎡ 従業員数：約2,600名
商業施設面積：約86,000㎡ 専門店：186店
駐車場：4,330台 商圏：約49万人、約19万世帯

イオンモールMiELL都城駅前 宮崎県都城市
グランドオープン：2008年12月1日



敷地面積：約53,000㎡ 従業員数：約1,000名
商業施設面積：約33,000㎡ 専門店：100店
駐車場：1,700台 商圏：約19.7万人、約7.5万世帯

※商圏は車30分圏内です。

海外事業の強化

当社は、2008年5月、北京に現地法人「永旺夢楽城(中国)商業管理有限公司」を設立し、中国におけるSC事業への取り組みを開始しました。

そして、11月7日には中国・北京市に中国事業1号店となる「イオン北京国際商城ショッピングセンター」をオープンしました。当SCは北京イオンとの共同開発事業であり、当社の現地法人が北京イオンよりプロパティマネジメント(PM)業務を受託しています。当SCは、北京市内最大級のモール型ショッピングセンターとして、「ワンストップショッピングセンター」をめざしています。また、こだわりのライフスタイルを持った30代から40代のファミリーと、流行に敏感な20代のお客さまを中心に多様なライフスタイルにお応えできるよう日系テナント35店を含む101の専門店で構成しています。

当社は今後、イオングループの中国事業展開において大型モールの開発を担い、とりわけ、北京・天津を中心とする華北エリアおよび青島を中心とする山東エリアで、今後5年間に5～7SCの開業を予定しています。

さらに2009年よりベトナムでフィージビリティスタディ(事業化の実現可能性調査)を開始し、これからの発展が期待されるアジア地域でのモール開発に取り組んでまいります。



イオン北京国際商城ショッピングセンター

所在地：北京市昌平区北清路1号
核店舗：ジャスコ国際商城店
敷地面積：約89,000㎡
商業施設面積：約91,000㎡
専門店：101店
駐車場：3,000台
従業員：約3,000名
商圏：約116万人 約38万世帯(車15分圏内)



イオンレイクタウンKAZE

埼玉県越谷市
2008/10/2
OPEN

「越谷レイクタウン」は、環境省の「街区まるごとCO₂20%削減事業」の第1号の取り組みとして、エコをキーワードに街づくりが進められています。当SCもソーラーパネルによる太陽光発電や省エネルギー設備の導入、再生材の利用で環境に配慮するなど、環境保全に向け最新の取り組みを行っています。イオンレイクタウンは、イオンリテール(株)の運営する「MORI」と当社が運営する「KAZE」で構成されています。「KAZE」はイオングループ初の「トライアングルモール」(三角形のモール)に、イオングループ初出店の食品スーパー「マルエツ」、**“オトナ”**をテーマとする高感度でトレンド感のある専門店

国内最大級で最新の“エコ・ショッピングセンター”

ゼネラルマネージャーから一言 鈴木 真琴

2008年10月のオープン以来、予想をはるかに上回るお客さまにご来店いただき、たいへん好調なスタートをきることができました。“エコ・ショッピングセンター”の名に恥じぬよう、『エコウィーク』などのイベントを毎年、定期的に開催します。さらに地元商工会や市の経済部との連携により、越谷の特産品や産業を、この新しい街にも定着させたいと願っています。また「イオンレイクタウンKAZE」の特徴は、駅に隣接していることから「車で来店比率が低い」ということです。これも、街ぐるみで取り組むCO₂20%削減に大きく貢献していると自負しています。



が全部で214店舗。特に20代・30代の方に人気のある最新のアパレル専門店や飲食店などを中心に構成され、流行の「風」が吹くトレンド発信地をめざします。



イオンモール草津

滋賀県草津市
2008/11/26
OPEN

自然環境に配慮した「エコショッピングモール」

「イオンモール草津」は、滋賀県最大級の“エコショッピングモール”としてオープン。1,400万人の水がめといわれ関西の水資源の中核を担う琵琶湖と、その周辺の自然や景観にマッチし、当社のSCとして、初めてCASBEEの最高位Sを取得しました。夜間の電力を蓄積して昼間に利用する「氷蓄熱システム」の導入をはじめ、約2,000㎡の「太陽光発電パネル」の設置、夜間の冷たい外気をSC内に取り入れ翌日に活用する「ナイトパーージシステム」、さらに施設内へ自然光を効果的に取り入れ昼光利用する「ライトウェルシステム」の導入により、既存の同規模SCに比較して、CO₂総排出量の約10%削減を達成しています。



ライトウェルシステム



太陽光発電パネル



ゼネラルマネージャーから一言 下岸 春雄

イオンモール草津は、「CASBEE」(建築物総合環境性能評価システム)のランキングで、最高位の「S」を日本で最も多くいただいているSCです。当然、その評価に恥じない管理を心がけています。1階に「エコステーション」を設置し、太陽光発電の発電量を表示したり、タッチパネル操作で環境への取り組みが学習できるようになっています。この「エコステーション」をはじめとする施設を地元の皆さんに開放して、エコロジー啓蒙の発信基地にしたい! 特に、学校や関連するNPO団体と連携し、近隣の小学生の社会科学習の一環として利用していただければ、たいへん嬉しいですね。



イオンモール筑紫野

福岡県筑紫野市
2008/12/5
OPEN

福岡都市圏南部に誕生した 新たなエンターテインメントシティ

50番目のSCとなる「イオンモール筑紫野」は、JR鹿児島本線「天拝山駅」に近く、福岡都市圏南部のベッドタウンをマーケットとしています。3層吹き抜け(天井高約20m)、長さ約200mの大空間は広い通路が緩やかなカーブを描き、伸び伸びとした空間を演出。約180の専門店により、さまざまな生活トレンドを提案しています。一方、従業員の就労環境の向上に配慮し従業員休憩室に設けられた「ミニストップ」も、テナント従業員に好評を得ています。また、環境保全の取り組みとしては、高効率冷凍機

(インバーターターボ冷凍機)導入のほか、太陽光発電、サインや照明へのLED採用によるCO₂の削減を推進。また、ベンチ・車侵入防止ポールなど複数の設備にリサイクル部材を採用し、省資源を進めています。



従業員専用
「ミニストップ」



太陽光発電パネル

ゼネラルマネージャーから一言 奥田 裕三

「イオンモール筑紫野」の特長は駅前立地であること、そして徹底した地域密着型のSCだということです。180店舗のうち50以上が地元からの出店です。と同時に福岡県初の店舗が30店、九州初の店舗も20店と、店舗展開の新鮮さも、お客さまにたいへんご好評いただいています。バランスのよいテナントの配置が功を奏しているといえるのではないのでしょうか。また、確定申告の時期には館内に申告会場を設け、約32,000人の方にご利用いただきました。地元の皆さまに大きく貢献できたのではないかと、ひそかに自負しています。



イオンモールMiELL都城駅前

宮崎県都城市
2008/12/1
OPEN

都城初のモール型ショッピングセンター

(株)ダイエーの土地を当社が取得してショッピングセンターを建設し、「ダイエー都城店」が核店舗として入店した活性化ビジネスの1号店です。「駅前」という名称に違わず、JR日豊本線「都城駅」から近く、国道269号線にも接道する中心市街地に位置しており、車でも電車でも、ご来店に便利な立地となっています。ユニバーサルデザインの導入は当然のこと、

高効率冷凍機(インバーターターボ冷凍機)の導入、太陽光発電、サインや照明へのLED採用によりCO₂を削減するなど、環境保全の取り組みにも十分に配慮されています。また既存の井戸水を館内トイレの洗浄水に利用し、上水の使用量を削減するなどの省資源化にも取り組んでいます。

ゼネラルマネージャーから一言 野口 誠

イオングループ初の核店舗となる「ダイエー」さんとの協力関係を大事に育てたいという思いから、「ダイエー」さんの「木曜の市」に合わせ、『MiELL DAY』を設けました。「イオンカード」「イオンバンクカード」「HAPPY MAIL CLUB配信メール」いずれかのご呈示で、さまざまな特典が受けられます。同時に、地元の商店街と連動して毎月20日・30日を「お客さま感謝デー」とし、地元ぐるみの集客に努めています。他に、イオンモールMiELL都城駅前の自慢は量贩きフードコートがあること。靴を脱いでゆっくりくつろぎたいお客さま、お子さま連れのお客さまに、たいへんご好評いただいています。



2008年度は、計画に沿って、既存店の増床・リニューアルを6SCで実施し、一層の競争力の強化と魅力的な専門店の導入を図り、さらなる業績拡大に取り組みました。上期は、「イオンモール福岡ルク」(福岡県)をはじめ3SC、下期は、これまでのおよそ1.4倍となる大規模な増床・リニューアルを実施した「イオンモール橿原アルル」(奈良県)と「イオンモール岡崎」(愛知県)に加え、増床なき活性化として

大幅な専門店入れ替えと既存店運営の見直しを行い、店舗数を1.5倍に増加させた「イオンモール伊丹テラス」(兵庫県)の3SCです。

それぞれのSCは、オープン後4～5年過ぎており、その間に寄せられたお客さまのご要望にお応えするとともに、リニューアルを機にユニバーサルデザインの一新や新しい環境設備を導入し、地域の皆さまからご支持いただけるSCをめざしています。

イオンモール伊丹テラス

大幅な専門店の入れ替えを実施し、新たに35店舗の導入により、専門店舗数は143店舗となりました。特にリニューアルのポイントとなったのは、キッズゾーンの充実。キッズゾーンでは3店舗が新規オープン、3店舗がリニューアルされ、幼児連れのお客さまの来店増加につながっています。一方、常に新鮮なSCであり続けることを目標に、グレード感の高いファッションや、多彩な飲食ラインなどを拡充することで、より上質なライフスタイルの提案と、今までにないショッピング空間の提供、自由な時間の演出を実現しています。



敷地面積：約61,000㎡
商業施設面積：約57,000㎡
専門店：143店
駐車台数：約2,800台

イオンモール福岡ルク

福岡のお客さまのみならず、県外を含む広域からも数多くのお客さまにお越しいただき、30代のファミリーを中心に、幅広い層にご支持をいただいています。SCの魅力向上をめざして、今回の増床により、ゆとり溢れる空間の中で「衣・食・住・遊」のさらなる充実をめざしました。その一例として、男性を対象とした趣味の専門店の九州初上陸を果たすと同時に、「ユニクロ」は、九州最大級のフロアに生まれ変わり、さまざまなライフスタイルに合った商品の充実を図っています。



敷地面積：約217,000㎡
商業施設面積：約83,500㎡
専門店：197店
駐車台数：約5,200台

イオンモール橿原アルル

大規模な増床・リニューアルを実施し面積を1.4倍に拡大。115店舗が新たに出店し、専門店舗数は243店舗となりました。同時に、既存棟においても19店舗がリニューアル改装。お客さまからご要望の多かった、より高感度なレディス・メンズのファッションをはじめ、インテリアやアパレル雑貨専門店を拡充させました。この結果により増床後の専門店売上高は、前期比約60%増を達成しました。2010年の「平城遷都1300年祭」という一大イベントを迎えるにあたり、今後は地元・奈良県や橿原市との連携をより深め、各種イベントを積極的に展開していきます。



敷地面積：約112,000㎡
商業施設面積：約92,000㎡
専門店：243店
駐車台数：約5,000台



イオンモール岡崎

お客さまからご要望の多かった、シネコン(10館併設)やアミューズメントなどエンターテインメント機能の新規棟を建設。既存棟の増床では和・洋・中を取り揃えたレストランゾーン、フードコートの新設など、97店舗が新規に出店し、SC全体の専門店舗数は212店舗となりました。面積は1.4倍となり、増床後の専門店の売上高は前期比約70%増を達成しました。設備についても見直しを図り、「赤ちゃん休憩室」3ヵ所を増設。さらに車椅子のお客さまに配慮し、駐車場にリモコンでゲートバーが開く専用区域を設けました。また、ひと目で駐車スペースの空き状態がわかる「車室管理システム」も導入、すべてのお客さまに安全で快適な「ユニバーサルデザイン」SCとなりました



敷地面積：約107,000㎡
商業施設面積：約95,000㎡
専門店：212店
駐車台数：約4,300台



2009年度の新規SC開店および増床・リニューアルの計画

2009年4月には、51番目のSCとなる「イオンモール広島祇園」(広島県広島市)を広島都市圏のベッドタウンに新規開店。また、2007年に一旦閉店した「イオンモール名古屋ワンダーシティ」(1994年開店)を、三菱商事㈱と共同で新たにSCを開発し、「mozo wonder city(モゾ ワンダー シティ)」(愛知県名古屋市中区)として、グランドオープンしています。

●新規SC

イオンモール広島祇園 ———— 広島県広島市



2009年4月29日グランドオープン

敷地面積：約135,000㎡
商業施設面積：約57,000㎡
専門店数：約130店
駐車台数：約2,800台

駐輪台数：約2,540台
従業員数：SC全体約2,500名
基本商圏：約48万人、20.6万世帯

mozo wonder city ———— 愛知県名古屋市中区



2009年4月21日グランドオープン

敷地面積：約107,000㎡
総賃貸面積：約85,000㎡
専門店数：約230店
駐車場台数：約5,000台

駐輪台数：約1,300台
従業員数：SC全体約3,500名
基本商圏：約130万人、約55万世帯

増床・リニューアルについては、「イオンモールつがる柏」(青森県)および「イオンモール秋田」(秋田県)、「イオンモール三光」(大分県)において4月にリニューアルを実施してグランドオープンし、続いて「イオンモール浜松志都呂」(静岡県)、「イオンモール名取エアリ」(宮城県)、「イオンモールむさし村山ミュー」(東京都)を予定しています。

●増床・リニューアルSC

上期

イオンモールつがる柏 ———— 2009年4月24日

イオンモール秋田 ———— 2009年4月24日

イオンモール三光

下期

イオンモール浜松志都呂

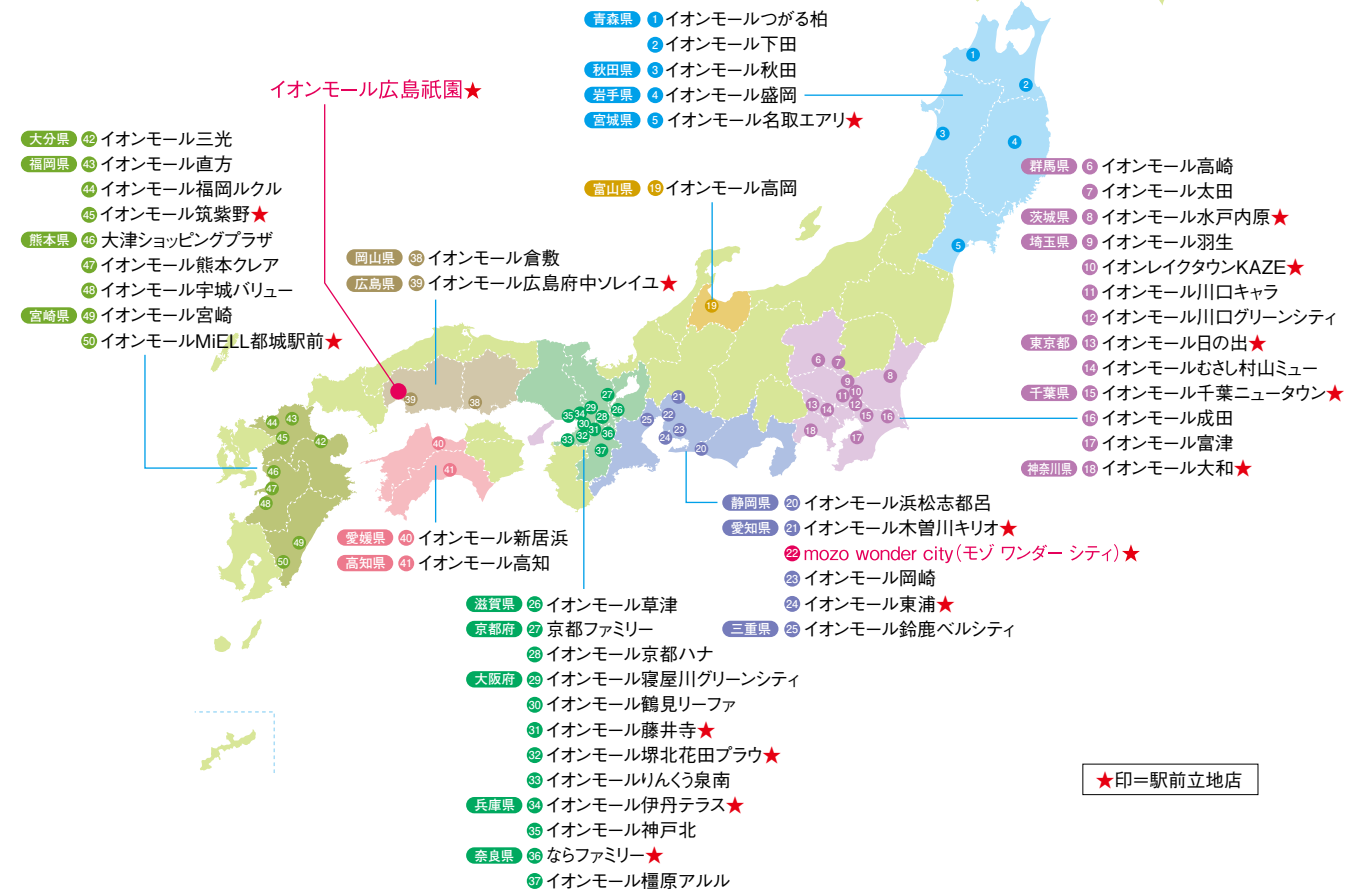
イオンモール名取エアリ

イオンモールむさし村山ミュー



SCの現状

当社は、2007年8月の合併からわずか1年半の間に、合計6SCを新規開店し、1都2府24県に50SCを運営するまでに成長し、日本最大のSC専門ディベロッパーとしての地位を一層強固なものにしています。2009年度新店を加えた国内51SCのうち、17SCは駅前に立地しており、より多くのお客さまがご来店しやすくなっています。また、2008年11月には、中国事業第1号店となる「イオン北京国際商城ショッピングセンター」(中国・北京)を新規開店し、専門店の誘致とともに、当社の現地法人が運営管理を行っています。

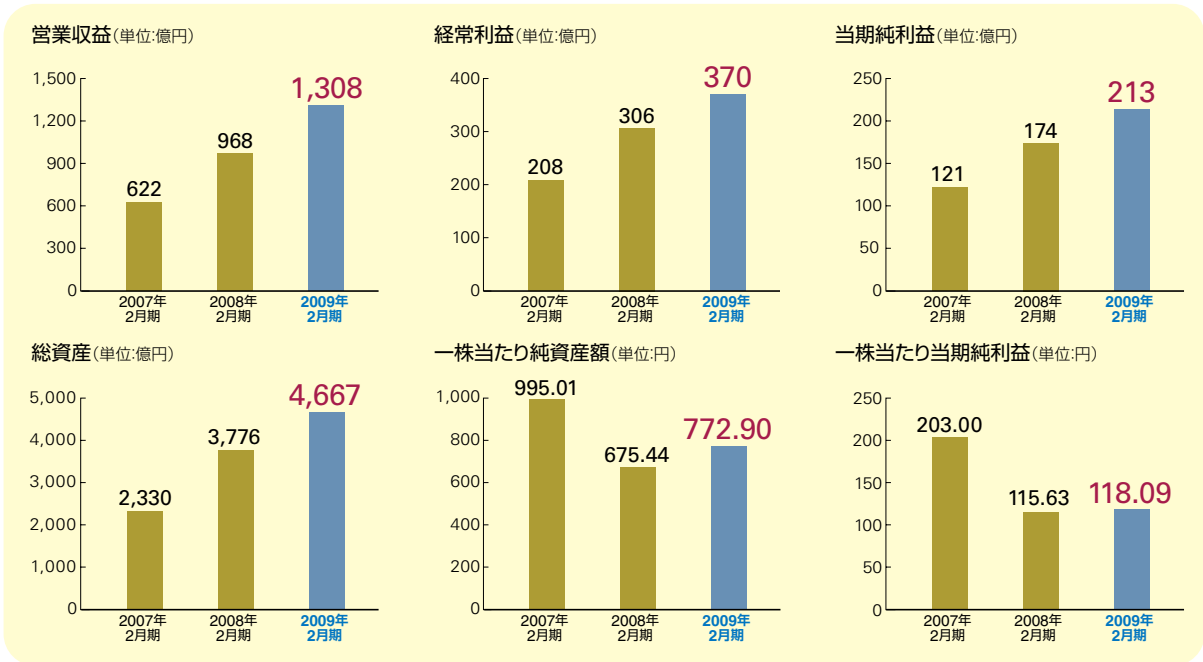


財務概況

2009年2月期連結業績概況

当年度の営業収益は、保険代理店事業を2008年2月21日付けにてイオン保険サービス株式会社(当社持分法適用関連会社)に分割したことにより前年度と比較し22億39百万円減少していますが、既存店(25SC)ベースで3億66百万円増加の656億52百万円(前年度比100.6%)に加え、2007年8月21日付の株式会社ダイヤモンドシティとの合併による増加270億64百万円、新規SC(前年度2SC、当年度4SC)の寄与による増加88億15百万円により、340億7百万円増加の1,308億13百万円(同135.1%)となりました。

事業規模の拡大により営業原価ならびに販売費及び一般管理費は増加しましたが、営業利益は62億27百万円増加の378億7千万円(前年度比119.7%)となり、経常利益も63億25百万円増加の370億6百万円(同120.6%)となりました。当期純利益も39億5千万円増加の213億9千万円(同122.7%)となりました。1株当たり当期純利益は、2.46円増加の118.09円となりました



(注)2007年2月20日を基準日として、2007年2月21日付で普通株式1株を2株に分割しています。
また、2007年8月21日付で(株)ダイヤモンドシティを吸収合併しました。

(単位:百万円)

連結貸借対照表	前 期	当 期
	2008年2月20日 現在	2009年2月20日 現在
資産の部		
流動資産	17,832	24,499
固定資産	359,829	442,219
有形固定資産	279,748	358,504
無形固定資産	1,608	2,162
投資その他の資産	78,472	81,552
資産合計	377,661	466,718
負債の部		
流動負債	93,591	139,179
固定負債	161,335	187,035
負債合計	254,927	326,214
純資産の部		
株式資本	122,086	139,846
資本金	16,662	16,662
資本剰余金	16,971	16,971
利益剰余金	88,466	106,234
自己株式	△14	△22
評価・換算差額等	252	141
新株予約権	—	55
少数株主持分	395	460
純資産合計	122,734	140,503
負債純資産合計	377,661	466,718

当年度末の連結貸借対照表のポイント

【総資産】

当年度末の総資産は、前年度末に比較し、890億57百万円増加し、4,667億18百万円となりました。これは、主に新規SCの開店および既存SCの増床など将来の収益増を見込んだ投資を積極的に進めた結果、有形固定資産が増加したことによるものです。

【負債】

当年度末の負債は、前年度末より712億87百万円増加の3,262億14百万円となりました。これは長期借入金を返済する一方で、長期借入金、社債、コマーシャル・ペーパーなどによる資金調達を実施するとともに、新規SCの開店および既存SCの増床による設備未払金などが増加したことによるものです。

なお、機動的な資金調達を目的として、2008年11月21日付で(株)格付投資情報センターにて長期債についてA+、短期債についてa-1の格付けを引き続き取得し、短期債の発行限度額を100億円から300億円へ引き上げられました。

【純資産】

当年度末の純資産は、前年度末に比較し177億69百万円増加の1,405億3百万円となりました。これは主に利益剰余金が増加したことによるものです。

(単位:百万円)

連結損益計算書	前 期	当 期
	自2007年2月21日 至2008年2月20日	自2008年2月21日 至2009年2月20日
営業収益	96,806	130,813
営業原価	56,410	82,416
営業総利益	40,396	48,396
販売費及び一般管理費	8,753	10,526
営業利益	31,642	37,870
営業外収益	961	1,629
営業外費用	1,922	2,493
経常利益	30,681	37,006
特別利益	5,905	1,334
特別損失	7,247	2,719
税金等調整前当期純利益	29,340	35,622
法人税、住民税及び事業税	14,611	13,556
法人税等調整額	△2,780	604
少数株主利益	69	71
当期純利益	17,439	21,390

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー	前 期	当 期
	自2007年2月21日 至2008年2月20日	自2008年2月21日 至2009年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,168	26,655
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,747	△63,908
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,441	38,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△11
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△2,020	917
現金及び現金同等物の期首残高	3,235	3,199
分割に伴う現金及び現金同等物	—	△23
合併に伴う現金及び現金同等物	1,983	—
現金及び現金同等物の期末残高	3,199	4,092

当年度の連結損益計算書のポイント

積極的な新規SCの開店や既存SCの増床・リニューアルの実施および株式会社ダイヤモンドシティとの合併による増加により増収増益を達成しました。一方、事業規模の拡大により、営業原価ならびに販売費及び一般管理費が増加し、営業利益率を押し下げっていますが、将来の成長に向けた取り組みが実を結び始めてきており、今後の収益へ寄与するものと見込んでいます。

当年度の連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当年度は、営業活動によるキャッシュ・フローは266億55百万円(前年度比5億13百万円減)となりましたが、新規SCの開店や大型の増床を行った結果、有形固定資産の取得による支出が増加し、フリー・キャッシュ・フローは、372億53百万円の支出増となりました。

※フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動からのキャッシュ・フロー+投資活動からのキャッシュ・フロー

株主コミュニケーション

株主優待のお知らせ

■対象株主さま

2009年2月20日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主さまについて、実施しています。

実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

〈優待制度〉

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2009年6月下旬に送付する優待品選択に関するご案内をご覧ください。

●ご優待商品

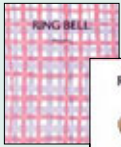
3つのコースからひとつを選択していただけます。

- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」※

※このサービスを選択されますと、相当額の二酸化炭素排出権が、有限責任中間法人「日本カーボンオフセット」(<http://www.co-j.jp/home/>)を通じて取得され、それを日本の国別登録簿に無償で移転することで、日本の京都議定書遵守に貢献します。

〈ご報告〉2008年2月期の実績では、37名の方よりご選択いただき55トン分のカーボンオフセットを取得いたしました。

イオン
ギフトカード

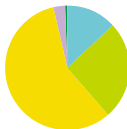


カタログ
ギフト

株式の状況 (2009年2月20日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 181,127,507株
株主数 9,542名

所有者別株式分布状況 (2009年2月20日現在)



金融機関 13.32%
外国法人等 25.51%
その他国内法人 57.70%
個人その他 3.13%
証券会社 0.31%

大株主(上位10名) (2009年2月20日現在)

	持株数(千株)	出資比率(%)
イオン株式会社	101,057	55.79
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	5,353	2.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	3,894	2.15
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	3,792	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,433	1.89
メロンバンク エヌイー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,773	1.53
農林中央金庫	1,925	1.06
バンク オフ ニューヨーク タツクス トリイティ ジヤスデツク オムニバス ツー	1,873	1.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,754	0.96
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てています。 2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株式の状況・会社概要

会社概要 (2009年2月20日現在)

社名	イオンモール株式会社
英文社名	AEON MALL CO., LTD.
設立	1911(明治44)年11月
資本金	166億6千2百万円
本社所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数	549名

取締役・監査役 (2009年5月13日現在)

取締役会長	林 直樹	取締役	岩本 馨
代表取締役社長	村上 教行	取締役	高橋 富士夫
専務取締役	木村 洋一	取締役	相馬 勝
専務取締役	山中 千敏	取締役	岩本 博
常務取締役	平林 秀博	常勤監査役	横井 賢
常務取締役	小西 幸夫	監査役	林 有恒
取締役相談役	岡田 元也	監査役	岡崎 隆夫
取締役	寺澤 洋一	監査役	若林 秀樹
取締役	村井 正人		

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com>から、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



イオンモールはホームページで様々な情報を発信しています。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からの挨拶を掲載しています。

株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
お問い合わせ先	イオンモール株式会社 人事総務部 総務グループ 〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1 電話 043-212-6463 ホームページ http://www.aeonmall.com
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載	http://www.aeonmall.com

株券電子化に伴う株式事務の変更について

2009年1月5日から上場会社の株券が電子化されました。これに伴い、株式事務のお申出先が次の通りとなりました。

■未払配当金のお支払い、支払明細の発行
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定等
【証券会社に口座をお持ちの株主様】
お取引の証券会社にお問い合わせください。

【特別口座の株主様(証券会社に口座をお持ちでない株主様)】
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■お問い合わせ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業

基本理念

お客さま第一

- 1 企画・開発・建設・リーシング・運営までの一貫したモールビジネスにおいての顧客は「地域のお客さま」です。
- 2 テナントスタッフを始め、清掃・警備やメンテナンスなどモール(SC)にかかわるすべてのパートナーとともに、「お客さま第一」の価値観を共有することが当社とパートナーの発展につながります。
- 3 お客さまの期待に応え、更なる期待を得、またそれに応えるという価値の連鎖により、持続的な発展があります。

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって魅力溢れる新しい生活があるまちのことを指します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人を指します。

コーポレートメッセージ



ひとも、まちも、きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1 イオンタワービル7階
TEL 043-212-6450 FAX 043-212-6736

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com>



このリーフレットは環境対応大豆油使用インキを使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用